



Q・子育て支援の成果は

A・豊山保育園の増築などにより、園児数増に対応した

Q 次世代育成支援計画の成果を問う。

豊山保育園の外壁の老朽化が目立つ。5～10年単位の施設維持計画はあるか。

毎月19日は、「子育て応援デー」である。講演会や19日を意識した企画を考えてみたか。

A 豊山町次世代育成支援対策行動計画を策定し、子育て支援施策を進めてきた。成果は、園児数の増加に対応する取り組みとして豊山保育園の増築を行った。放課後児童クラブなかよし会では施設を建設し、定員を増員するとともに、新たに土曜

日開催を実施した。また、子育てニーズに対応するため、ファミリー・サポート・センターを立ち上げた。

保育園の施設改修については、耐震補強工

を実施したときに既に完成している。外壁、防水工事については、状況に応じて実施していく。外壁については、非構造部材であるモルタルを耐震化する必要があり、保育園全体を計画していく。

子育て応援の日(はぐみんデー)は、家庭、職場、地域社会などで、できることから始める取組みであることから、はぐみんデーに特化した講演会などの実施は今のところ考えていない。

また本町では、「子育て家庭優待(はぐみん)カードの発行」、「ほっとママの会」、「家庭教育相談」、子育て支援や家庭教育に関する講座・教室」などを行っていく。

また本町では、「子育て家庭優待(はぐみん)カードの発行」、「ほっとママの会」、「家庭教育相談」、子育て支援や家庭教育に関する講座・教室」などを行っていく。



みんなで応援しよう子育て

Q・人事計画の確立を

A・意欲向上に繋がる環境づくりに努める

Q 先の議会で同僚議員が、新介護制度を巡って肅々と質された。素直に言って、生活福祉部の現状では、新介護という大事業に挑むには、極めて深刻だ。町の幹部と人事担当者の考えを尋ねる。

この問題を囁きや独り言ではなく、公式の場で質するのが議員の責務と考え、尋ねる。

この3年から4年、幹部職員の定年退職が見込まれる。保健センターの所長も然り、後継者の育成は、将来を

見据えた人事計画の確立について、納得のいく説明を求める。

A 新たな医療介護制度には新組織体制で対応する。職員配置は国の基準を満たし、人間的に業務に支障はない。

保健センター所長は一般職でも可能である。現若手保健師は、十分な技量を持つ。今後、保健師の知識や経験を傳承するため、再任用制度等により円滑な事務の引き継ぎに努める。

新たに、新人を対象とした研修導入の検討と、職員の意欲向上に繋がる環境づくりに努める。